

公表

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ゆーもあstudio			
○保護者評価実施期間	2025年12月19日 ～ 2026年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数)	31名
○従業者評価実施期間	2025年12月19日 ～ 2026年1月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	清潔かつ年齢や活動内容に応じた生活空間の提供	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の各部屋をフル活用し、必要に応じた部屋分けが可能な状態となっている。 必要な箇所に防犯カメラを設置、こどもも職員もお互いを守るための工夫を導入している。 環境整備に力を入れており、日々の掃除をこどもを交えて徹底して行っている。また物の住所も視覚的に伝わりやすいよう整備、こどもたちも片付けしやすいよう工夫している。 支援前に打ち合わせを実施、当日のこどもたちの状況に応じた配置や動きを事前に想定し支援に臨んでいる。また支援後には振り返りも実施、当日のこどもたちの様子を共有し合ったりヒヤリハット事案があればその場で対応策を話し合う場を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの死角になる箇所について、指導員が適宜目視で確認できるような立ち位置など検討していく。また、子どもたちにもお互いを守るためのルールを継続して確認してもらい、より安心できる事業所にできるよう見直しを行う。 クールダウンできる場所を増設するなど、環境の再設定を図る。また必要に応じて職員の配置数を増やすなど、よりこどもの安全を考えた体制を検討する。
2	こどもの意思決定支援	<ul style="list-style-type: none"> 曜日毎に主支援担当職員を固定化、こどもたちから施設活動で何をしたいか等の意見確認を毎回行っている。実際に集まったアイデアをイベント化し、達成に向けてその道筋を子どもたちに考えてもらいながら活動に参加してもらっている。 またイベント後に振り返りも実施、より満足のいく内容にするためには何が必要だったかなどを考える時間を設け、こどもたちにもPDCAサイクルを意識した活動を提供している。 こどもたちが自由に、そして安心して意見を発信できるよう適宜指導員が介入し、能動的に動きだせるような仕組み作りを行い、年齢や特性に応じて集団参加しつつ自己表現できる場を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きこどもたちの思いや考えを表現しやすい環境を維持しつつ、目標達成に向けて筋立てて考えるトレーニングを提供していく。 また相談事などがあつた際には共感的に関わり、必要に応じたアドバイスを続ける。
3	多角的な子どものアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの支援に関わる職員の共通理解のもと、子どもの最善の利益を考慮した支援計画の策定を行っている。 上記に関連し、日々の職員間の密なコミュニケーションで子どもたちの成長度合いや近況を確認しているとともに、月に一度目安で子どもの様子を振り返る会議を今年度より行っている。定期的に支援計画の達成状況や変更点など確認し合い、その時々の子どもたちに沿った支援を行えるよう意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して子ども様子を共有し合いながら、より良い支援を行えるよう形を作る。 場合によっては外部の専門家の方からのアドバイスを頂戴し、保護者をはじめ各関係機関との連携を深め横断的な支援を行えるよう準備をする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係各所との情報共有の在り方、必要に応じた対応ができていない	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所、学校との連携は面談の機会を定期的に設けることでスムーズに行われている。しかし保護者様からのタイムリーな相談内容に対応しきれていない部分が課題となっている。 就学前や学校卒業後の支援機関のサービス移行について情報提供は該当する児がいなくてもあり事業所として経験が不足している。 セルフプラン利用の方々に児童発達支援・放課後等デイサービス事業所としてどこまで関わることができるか目下模索段階にある。 保護者の方へ向けたお子様の成長に必要な情報の発信、ないしは機会の提供についてまだ十分とは言えず、その発信方法も含め検討の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者様からの意見を基に、外部機関との情報共有にどのようなニーズがあるのか確認していき、必要に応じて情報共有のためのフォーマットを作成する。 職員が広く子どもの自立や支援に関する研修の参加、または他機関見学を行っていき、事業所全体で関係機関連携への見識を深めていく。また実際に連携が必要になった際の動きを淀みなくとれるよう訓練や共有を行っていく。 職員のみならず保護者様方に向けた家族支援プログラムや、関連する研修の情報について収集を行っていき、伝わりやすい形で情報提供できる形を作る。 第三者による外部評価についても検討し、より業務改善に資する仕組みの導入を検討する。
2	地域や保護者同士のつながり	<ul style="list-style-type: none"> 他放課後等デイサービス事業所との関わり等は設けていないが、広範囲の地域からお預かりしているお子様同士の積極的な交流の場を推進している。 また様々なケースのお子様をお預かりしていることから、積極的な外部のお子様との交流機会は設けていない。 保護者同士の交流については年に一度保護者会を実施しているが、小グループでの家族支援の機会等により情報共有の場を設ける必要も示唆されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動資源の探索と適切な導入の検討を行う。 地域行事に事業所としてどのように参画するか、在り方を模索する。 基幹相談支援事業所等との情報交換を積極的に行い、地域特性に合わせた交流や活動参加について検討する。 保護者会以外にも家族支援につながるような機会の創出について、検討する。
3	こどもの最新の情報の更新とその共有方法	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットを受け、アレルギーや服薬状況など、常に最新の情報を把握できるよう今の方法をよりブラッシュアップさせる必要性があることが示唆された。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去にアレルギー判定を受けている子の近況や変化があつた際の保護者からの最新の情報提供を受けられる仕組みづくりと、対応方法や職員の動きなどの訓練・研修の内容強化を図る。